

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館

☎ 364-8442

明けましておめでとうございます。
新年おめでとうございます。

昨年は今年こそ良い年と願いを掛け
て暮らした一年でしたが、余り結構な
ことばかりでもなかつた年だったと思
います。

それでも楽あれば苦あり、苦あれば
樂あり、二〇〇二年こそは楽しい年で
あることを皆で念じて、懸命に努力す
れば、曙光も遠くに見えてくると思
います。

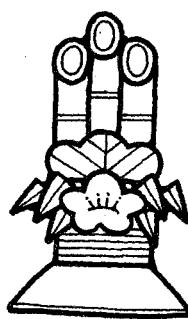
各部で種々事業を計画して、皆でコ
ミュニケーションを図りたく努力しま
すので宜しく御支援お願いいいたします。

ミニミニテイ推進協議会

会長 跡 辺 二夫

本年もどうぞよろしく
お願ひ申し上げます。

ミニミニテイ推進協議会役員一同



謹
賀
新
年

新年明けましておめでとうございます。
皆様にはご家族御揃いで良い年を
迎えられましたこと心からお慶び申し
上げます。

昨年は長引く不況、さらに国内の内外
で大変大きな出来事や事件が多い年で
もありました。

このようなか、大代五区におきま
しては地域の方々と力を合わせ、事件
や犯罪のない明るく楽しい、そして生
きがいのあるまちづくりを目指し引き
続き努力してまいりたいと思
います。

あいさつは心のふれあい

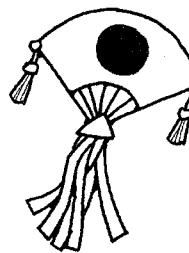
あいさつしましよう出合った人と

あいさつしましよう

今年も地域の皆様の尚一層のご協力
をお願い申し上げますとともに、御健
勝、御多幸を祈念し大代五区区長を代
表してご挨拶いたします。

大代五区連合会

会長 福田 幸治



新年への抱負

昨年私は、障害者に関する事に
ふれる機会が何度かありました。

夏休み、公民館での子ども手話教室
に妹と通いました。色、数、歌など習
いました。一緒に通つた友達と二人で、
クラスのみんなに手話で問題を出した
りしました。簡単な手話しか出来ま
せんが、覚えるととても楽しいもので
した。

障害者みやぎ国体の時、グランディ
に行って競技を見学しました。いろい
ろな障害を持つた人ばかりでした。手
話で話している人がたくさんいました
が、私には、何を話しているのか全く
わかりませんでした。もっと手話を覚
えたいたいと思いました。

これからは、体の不自由な人を助け
てあげられるように、チャンスがあつ
たら、いろんなことにチャレンジして
いきたいと思います。

この度平成十三年十一月三十日をも
つて民生児童委員を退任いたしました。
七期二十二年、地域の皆様には大変
ご協力いただきありがとうございました。
ご協力いただきましたがどうございま
した。顧みますと福祉行政も大代の街も
就任当時は大幅に変わり活動の内容
も複雑になつてしまりましたが、福祉
の原点である「お互ひを思いやる心」
に変わりはないと思います。

私も突然の主人の病気、その介護で
一時は途中退任も考えましたが、思
ところがあり、行政の皆様、同僚委員
の皆様、地域の皆様、家庭では子供達
等々たくさん思いやりに支えられ任
期を全うすることができます。今更
ながら心の大切さを痛感しております。
後はその立場でできること。そうです、
先輩委員が言つていました。「民生委
員のOBらしく静かにできるボランテ
リアを一生続けよう!」私も同感です。
長い間、本当にありがとうございます。

詳しく述べるは敬愛ホームの係、畠中まで
ご連絡いただければ幸いです。

(☎ 三六六一七一一七)

『新年を祝う会』に参加を!

先に町内会回覧でお知らせしており
ますが、地域の方々が一同に会して親
睦を深める機会でもありますので、お
誘い合わせの上多くの方々に参加して
いただきますようお願いします。

◎日 時 平成十四年一月十三日(日)
十一時から十三時まで

◎場所 大代地区公民館体育室
一、五〇〇円

◎参加申込 大代地区公民館に直接
(三六四一八四四二)

◎その他 アトラクション
(民謡、舞踊など)

お楽しみ抽選会もあります。
ミニミニテイ推進部

民生児童委員上り

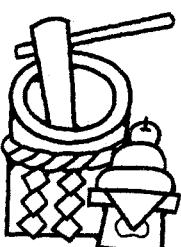
あけましておめでとうございます。
平成十四年の輝かしい年をご家族お揃
いでお迎えのこととおよろこび申し上
げます。



こんなにちわ、恵愛ホームです!

この度、星繁子様後任として就任い
たしました小高征津子です。
星様には二十一年間の長期に亘り御
尽力なされ大変にご苦労様でございま
した。民生委員として一からのスタートと
なりますが、少しづつ勉強をし、又諸
先輩の方々の御指導もいただきながら
努めて参りますのでよろしくお願ひ申
し上げます。

大代南区 小高征津子



「あ！来たな」と思う瞬間である。大した風もないのに突然参列者の頭上に落ちてくる柏の葉。まだ柏木神社が西区の方にあつた頃、十五才の私は兵隊になるべく家族や近所の人々に送られて多賀城駅に向かう途中、氏神様である柏木神社にお参りして出発したのでした。当時出で立つ人々は、この社にお参りして身の安全を祈り、無事故の祭りが毎年秋にあるのです。そして参列した人々、遺族の方たちの頭上に降りかかる柏の葉。私はいつもこの時に帰れる事をお祈りしたのでした。その御社に遂に帰れなかつた六十数名の方々を祀つてある隣の護国神社、その祭りが毎年秋にあるのです。そして参列した人々、遺族の方たちの頭上に降りかかる柏の葉。私はいつもこの時に帰れる事をお祈りしたのでした。

二十二才と二十四才で逝つた兄達を思い出すと、親たちはどんな思いで遺骨を迎えたか。親になり祖父になつた今、一日の半分は遠い昔の思い出にひたるこの頃、この柏木様の本殿の背後にそびえ立つ柏の木は、望郷の想いで亡くなつた方達、又遠く故郷を離れ故郷を想い続ける、この地出身の方達の思い出の象徴として、永くその葉っぱを振りそいでいただきたいと思つています。その一枚を拾つて家の棚に供えてください。「よく来たね」と。



大代南区 跡邊三夫

地行はか丹の葬かどが界かな
の入十とみしは朝あ一備る
をく二つ念話地かがあがつど一遅輸ソ分ながた大食ち
抜手手たににがつうり開て無行配送當後り迫車のら
けのに。地皆かたか、けの人の、手時分視は水界は
苦をか係の積りだえつ駅容郷は配し鐵嶺はくに勾に
いり丁スッタ的るた。のくな走又又なな達ん。配な
闘、寧々にら。一レにどり山横かんしで急を進そ見
倒にツ尋聞し近行んち点続、流つか下見變進そ見
で木探フねきいくがガよ在け切したなりえし、だるこ
しをすを込とにこ工つしるりの。く勾なた、配い天や
まこ入歩み、日の場とての通噂従。たとえでん、候が
たとれくを村本辺、しいでしもつと。候が園となうけダ
ぎにたよ始の人に炭たたし崖あてラな發はて舎。いにスニ注
、し一りめ長のさ坑集。たぶつ食ツる車雷山をこの。ブ等意い
湿を行なた老埋しな落視。ちた料ク。三雨並發れで又レにす。

柏の葉っぱと落ちてくる柏の葉っぱ、パラパラッと落ちてくる柏の葉っぱ、ますよう。今年こそ穏やかな年であります。私は回想起のシベリア・テイル、この墓にぶぶくれたのです。偶然訪れた柏木神社にお参りして出発したのでした。当時出で立つ人々は、この社にお参りして身の安全を祈り、無事故の祭りが毎年秋にあるのです。そして参列した人々、遺族の方たちの頭上に降りかかる柏の葉。私はいつもこの時に帰れる事をお祈りしたのでした。

その御社に遂に帰れなかつた六十数名の方々を祀つてある隣の護国神社、その祭りが毎年秋にあるのです。そして参列した人々、遺族の方たちの頭上に降りかかる柏の葉。私はいつもこの時に帰れる事をお祈りしたのでした。

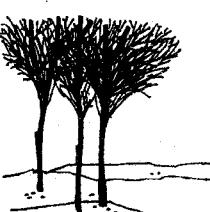


護夜車の旅もまもなく六日目となる。この墓にぶぶくれたのです。偶然訪れた柏木神社にお参りして出発したのでした。当時出で立つ人々は、この社にお参りして身の安全を祈り、無事故の祭りが毎年秋にあるのです。そして参列した人々、遺族の方たちの頭上に降りかかる柏の葉。私はいつもこの時に帰れる事をお祈りしたのでした。

その御社に遂に帰れなかつた六十数名の方々を祀つてある隣の護国神社、その祭りが毎年秋にあるのです。そして参列した人々、遺族の方たちの頭上に降りかかる柏の葉。私はいつもこの時に帰れる事をお祈りしたのでした。

動へ力精戻眺ただ 又ので召て歳一のしるをのたも經弔り焚線
と明と進り望。そ我来なしでの父点とた涙合丘。つに辞、き香
な日ソお今しひう々れいた発と寝さのき。を唱、つた涙、日
はと日だばは彼。つてテセしのが二。一と女顔た動き緒はまことともげ
イーか無今七夕旦慰にもとこうのに帰れた。き通訳
ルジ、事は分食駅めは忘きうと母さんとしんが促動
マをア故無所前舎に無れ彼としんが促動
病振ルに人女の懸理写女
院るベ乾の囚一戻命か真はなんに。
第舞一杯郷取時つでらの六かに。とこに
二つト、で容、たしぬ父歳つ詳帰ししでたしつなが促動
のて君口し所付。た事しでたしつなが促動
墓くがシたの近今。かか妹。いてか同さ。
地れウア。辺を夜
にたオ式舎り歩の
移。ツのにをい宿

の入十とみしは朝あ一備る
再進に健
草刈り鎌などは行なつては
骨を迎えたか。親になり祖父になつた
今、一日の半分は遠い昔の思い出にひ
たるこの頃、この柏木様の本殿の背後
にそびえ立つ柏の木は、望郷の想いで
亡くなつた方達、又遠く故郷を離れ故
郷を想い続ける、この地出身の方達の
思い出の象徴として、永くその葉っぱ
を振りそいでいただきたいと思つてい
ます。その一枚を拾つて家の棚に供えて
ください。「よく来たね」と。



所周辺で下校中の女子児童三人のうち一人が、突然後ろから知らない人に

服をひっぱられ、怖い思いをしたとい

うことがありました。このようなこと

が近隣の地域で継続して発生している

とのことです。

学校側では、次の事項を保護者にお願いしておりますが、地域の皆さんも児童の登下校の様子を見守つていただき、事故防止にご協力いただけますようお願いします。

一、登下校は、友達と一緒に。

(グループで)

二、帰宅時間が遅くならないように。

三、お家人の人と約束した決められた道

路を通つて、家に帰るようにする。

四、あぶないめにあつたときは、近くの家に逃げ込むよう。

(含・子供110番の家)

五、知らない人に「車に乗らない?」と

言われても絶対乗らないようとする。

六、知らない人に道を聞かれたら、車

に乗つたり近づいたりせず、その

場所で教えるよう。

七、少々、遠回りになつても人通りの

多い道路を通るよう。

八、保護者の方々で、時間の許す方は児童の登下校の様子を見守つて欲しい。

広報部

併句

☆凍蝶の 気息整う 日射しかな
☆袴着の 靴履いている 宮参り
☆大根を 洗う腕の 白さかな